

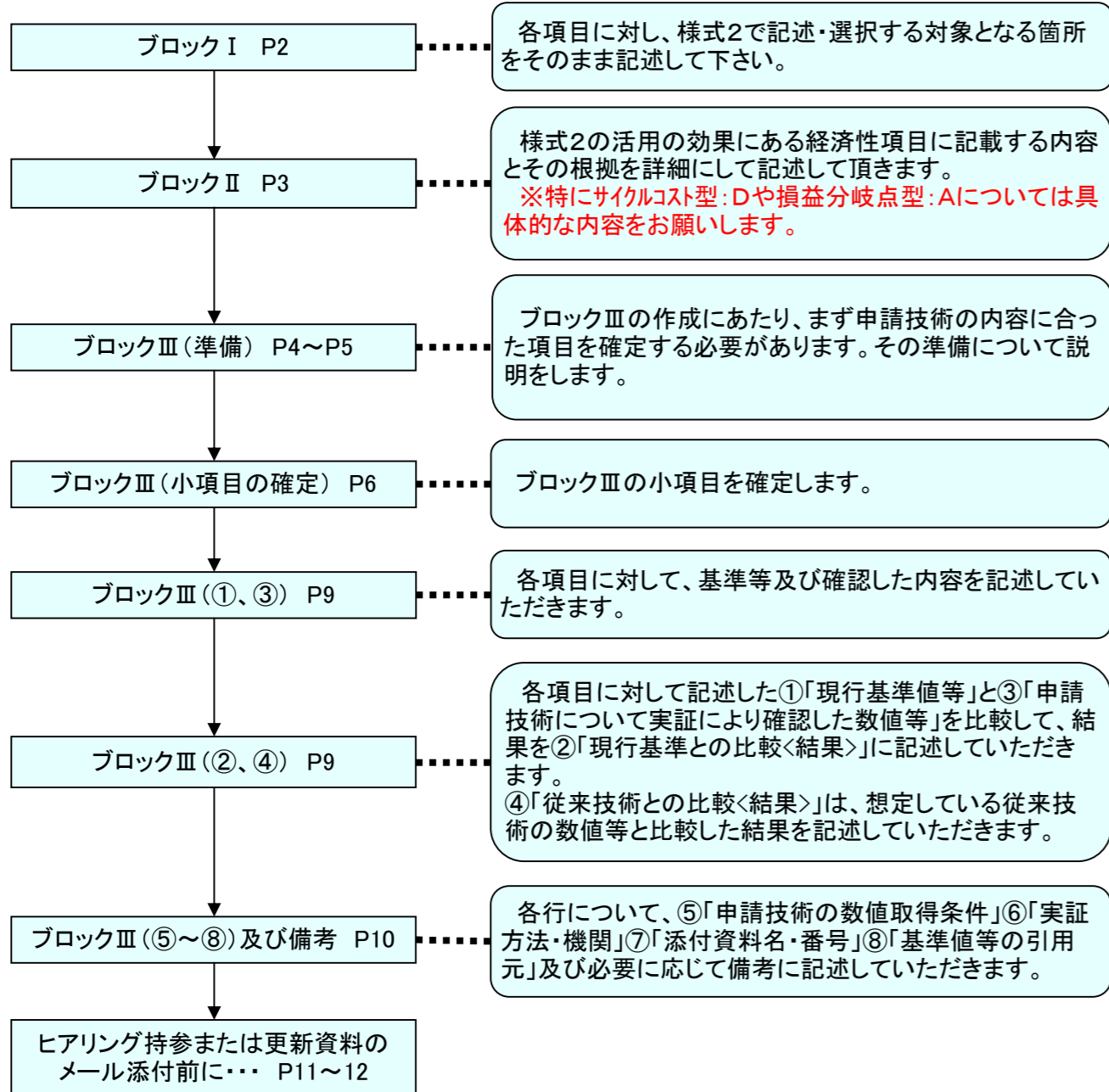
様式3の書き方のポイントについて

技術概要説明資料(様式3)の目的

技術の成立性を確認するための資料で、「経済性」、「安全性」、「耐久性」、「品質・出来型」、「施工性」、「周辺環境への影響」等の評価項目に関し、活用等を想定する工事等の各種基準類に対する確認値等と従来技術との比較を記載して下さい。

書き進め方

様式3には様々な記入項目が用意されていますが、各項目はそれぞれが関連しているため下記の書き進め方に沿って記述して頂くと、書きやすいと思います。
なお、様式3に記述する内容は、必ず様式2と整合をとってください。



※文字の着色について

様式3にある代表的な項目について、シート別に書き方のポイントの説明を載せましたが、そこで着色されている文字等は、説明する上で分かり易く着色しているものです。
様式3を作成する際、例に挙げたような文字の着色は必要ありません。
様式3は、エクセル・A3横で作成して下さい。

詳細説明資料(様式3)のブロック位置について

詳細説明資料(様式3)の作成のポイントを説明するにあたり、便宜上この資料では、下図のようにブロック分けをしています。

The screenshot shows a complex spreadsheet form with multiple columns and rows. It is divided into three main sections labeled as Block I, Block II, and Block III. Block I is at the top, Block II in the middle, and Block III at the bottom. The form contains various data entry fields, headers, and footers. The color coding highlights specific areas: Block I is light blue, Block II is light green, and Block III is light yellow. The bottom part of the form contains a legend for the color coding.

詳細説明資料(様式3)の公開用様式と申請用様式について

詳細説明資料(様式3)は**公開用**と**申請用**の2種類があります。ただし、新規申請または更新時にHPからダウンロード出来る様式は、**申請用のみ**です。申請にあたり申請用の様式3を作成して下さい。**公開用様式**については、資料完成時にこちらから加工の方法をメールにてお送りします。

ブロックⅡについて

様式2の活用の効果で記述した経済性にかかわる事項とその根拠の詳細になります。対象箇所と照らし合わせながら記入して下さい。(下図では、詳細説明資料(様式3)がA3ヨコ資料であるため、ブロックⅡ部分を左右に切り分けて説明しています。)

基本的に様式2の活用の効果・経済性で記述した内容(単位や数量)に合わせてください。やむを得ず変える場合は、備考にその理由と考え方を記述して下さい。また対象とならない欄については「-」を記入して下さい。

初期投資費用が施工量による単価差でペイされ、逆転する場合や、維持管理等に関わる費用を算出してください。
また、その費用が発生する年数や数量などがある場合や、逆転する目安や周期については備考に記述して下さい。コストタイプ型番がAまたはDタイプの場合は、ここに記述されるはずです。

様式2の活用の効果・経済性で記述した内容(単位や数量)に合わせてください。

従来技術、申請技術の費用を比較した結果が何%になるのかを記述して下さい。

評価項目					
大	中	小	従来技術のコスト	申請技術のコスト	従来技術との比較<結果>
経済性	イニシャルコスト	単位数量当たり	55,000円/100m	48,000円/100m	12.7%向上
	ランニングコスト	対象外	-	-	-
	その他	-	-	-	-
	トータルコスト	合計額	55,000円/100m	48,000円/100m	12.7%向上

上記の内容の合計を記述して下さい

特許費用など特筆すべき内容がある場合にその他へ必ず記述して下さい。

算出にあたり計上した項目を記述して下さい。

従来技術・申請技術、それぞれの積算を行った際の条件を挙げてください。

左記項目にない内容、特に、コストタイプ型番がAまたはDタイプの場合は、ここに詳細を記述して下さい。

申請者記入欄					備考
従来技術積算条件	申請技術積算条件	申請技術の積算方法	添付資料名・番号 (根拠データ等)	従来技術引用元	
改良幅 □m 改良厚 ○○mm 施工延長 △△m	改良幅 □m 改良厚 ○○mm 施工延長 △△m	自社歩掛	【参考資料1】 ○○工法工事価格表(概算)	『国土交通省 土木積算基準』 (平成○○年度版)P.○～△△	-
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-

積算額をどのように算出したのかを記述して下さい。

申請技術の積算にかかわる添付資料と資料名、また建設物価等からの抜粋の場合は、その年・号・頁が分かるようにお願いします。
従来技術の積算内訳資料の添付も必要となります。

従来技術の積算に際し、引用した発行物名または、協会・自社資料等が分かるように、名称を記述してその年・号・頁も分かるようにお願いします。

ブロックⅢ(準備)について

詳細説明資料(様式3)の作成にあたり、NETIS(新技術提供システム)から申請技術と近い技術や似ている工種などの掲載内容を参照して、項目を確定して頂きます。

NETIS(新技術情報提供システム)の画面

まず最初に、ブラウザ(Internet Explorer等)よりNETIS(新技術提供システム)を検索し、「NETIS(申請情報)の画面へ」を選択して下さい。

新技術の検索の画面

次に、「条件で検索」を選択して下さい。

ブロックⅢ(準備)について

条件で検索の画面

①様式資料の「詳細説明資料(様式3)」にチェックを入れて下さい。

③区分から検索する
申請技術と同じ区分を選択し、同種の技術を検索します。
*特にシステムと区分した新技術の場合は、ここからダウンロード出来る資料が、項目立てに有効です。

④収集整備局で「〇〇整備局」を選択して下さい。

システムと区分した新技術は、
①既存または新たな技術をいくつか組み合わせて、活用にあたりシステム化したもの
②機械を制御するあるいは調査などに使用するパソコンのソフトなどが主たる新技術であるものの2種類に大別されます。

検索した新技術概要説明情報にある「詳細説明資料」というシートをクリックすると様式3を開くことができます。

検索オプション ※必要な項目のみ選択、入力してください。

▶様式資料 詳細説明資料(様式3)

▶工種分類の選択
 分類(1)
 分類(2)
 分類(3)
 分類(4)

▶技術の区分 工法 材料 機械 製品 システム

▶キーワード 安全・安心 環境 情報化 コスト 品質 景観
 伝統・歴史・文化 リサイクル

▶開発目標 省人化 省力化 経済性 施工精度 耐久性 安全性 作業環境 周辺環境
 地球環境 省資源 品質の向上 リサイクル その他

▶歩掛の有無 標準歩掛 暫定歩掛 協会歩掛 自社歩掛 支援施設技術

▶技術名称 ▶開発会社

▶登録No. ▶開発体制 単独(産 官 学)
 共同研究(産・産 産・官 産・学 産・官・学)

▶収集整備局 ▶開発年 ~ (半角入力、例:1997)

▶都道府県 ※都道府県は、開発会社の問合せ先(技術)の住所に対して検索を行います。

▶特許の有無 ▶実用新案の有無

▶評価証明の有無 建設技術評価 港湾に関わる民間技術評価
 民間 その他

▶実績件数 公共機関 件
 民間 件

このシステムはInternet Explorerの文字サイズ「小」で開発しております。
著作権等について

Copyright 2004, New Technology Information System All Rights Reserved.

②分類から検索する
申請技術と同じ分類を選択し、同種の技術を検索します。

⑤チェックや選択をされたら、「検索開始」のボタンを押して下さい。すると「条件で検索－検索結果一覧」の画面が表示されます。

新技術概要説明資料の画面

上記※印の情報と以下の情報は申請者の申請に基づき掲載しております。申請情報の最終更新年月日:2008.04.01

概要	従来技術との比較	審査証明	申請書	施工方法	問合せ先	詳細説明資料
副題	土質改良工法		区分	工法		
分類1	土工 - 土工 - 残土処理工					
概要						
①何について何をする技術なのか? 土質性状の異なる2種類あるいは3種類の建設発生土等を組合わせ、粒度改良や含水比改善を行うことにより、要求品質基準を満足する盛土材料を製造する物理的混合処理技術である。						

ブロックⅢ(小項目の確定)について

P.4～5の方法で検索・閲覧した詳細説明資料(様式3)の項目で、申請しようとする技術の対象となる項目を参考にしてください。また、既に作成してある様式2の記述内容で、**新規性及び期待される効果と実験等実施状況**に記述されている内容も項目として立ててください。既に項目立てしてある合理化や適用範囲などは必ず**様式2**とリンクする内容で、記述して下さい。

NETIS(新技術情報提供システム)を活用して検索・閲覧した様式3

これらの中から、対象となる部分を参考にしてください。

技術分野		技術名称	技術内容	技術の概要	技術の利点
情報処理	データベース	データベース	データベース	データベース	データベース
	ネットワーク	ネットワーク	ネットワーク	ネットワーク	ネットワーク
	セキュリティ	セキュリティ	セキュリティ	セキュリティ	セキュリティ
	その他	その他	その他	その他	その他
機械	機械	機械	機械	機械	機械
	電気	電気	電気	電気	電気
	化学	化学	化学	化学	化学
	その他	その他	その他	その他	その他
建築	建築	建築	建築	建築	建築
	土木	土木	土木	土木	土木
	都市計画	都市計画	都市計画	都市計画	都市計画
	その他	その他	その他	その他	その他
その他	その他	その他	その他	その他	その他
	その他	その他	その他	その他	その他
	その他	その他	その他	その他	その他
	その他	その他	その他	その他	その他

◎様式2の記述内容から、
 ・新規性及び期待される効果
 ・適用条件
 ・適用範囲
 ・活用の効果
 ・工程
 ・実験等実施状況
 などを確認しながら項目立てして下さい。

ブロックⅢ中項目、小項目について(参考)

詳細説明資料(様式3)の作成にあたり、下記の各項目のコメントを参照して記入して下さい。

各項目に対し、記述して頂きたい内容を下記に示します。参考にして下さい。
※大、中項目は、変更・削除をしないで下さい。

安全性／耐久性／品質・出来形

大	中	小項目	説明
安全性	構造		技術によって得られる成果の構造、システムの安全性やその成果を利用する場合の安全性について項目立てして下さい。
	施工段階	作業員に 第三者に	様式2の留意事項②施工時において、施工時に安全性に関わる留意事項を記載した場合、その記載事項を項目立てして下さい。 施工時に安全性に関わる留意事項がない場合は、事故等の有無に関する事項を記述して下さい。 ①に留意事項の内容を具体的に記述します。⑧は自社基準、自社企画などとして下さい。⑦施工計画書:安全管理等にし、安全性に関して実証できるデータを記載して下さい。 また、材料や製品の技術においては、項目立てするのは難しいと思いますので、記載がなくても構いません。
	物性	材料の強度	耐久性とは継続的かつ長期的に保持できる性能です。完成物や製品自体の耐久性及びそれらの造成に関わる機器などに新たな工夫や部分がある場合、それらについてそれぞれに確認した内容を記述して下さい。
耐久性	形状		
	能力		
品質・出来形	材料	材料の規格	材料や製品の品質、施工に係る施工管理、完成物に関する出来形管理など、基準に照らし合わせて項目立てし、記入してください。
		材料の規格	新技術に関して、従来技術の基準そのものではマッチしない様な場合、又は基準を代用するような場合は、代用しても構わないという根拠を具体的に示してください。
	配筋	よくある質問 [Q]二次製品なので、製品の品質基準を記載しました。現地製作である従来技術とは根本で品質管理が異なると思うのですが、比較はどのように記載するのが良いのでしょうか？ [A]大きく分けて2通りの定義があります。一つは、結果的な数値・単位等が同様の場合、従来の品質管理基準等を記載し、数値等を定量的に表現する場合と、もう一つは全く違う品質管理方法で、数値・単位とも違う場合、その結果が従来の品質管理基準の内容・方法と置き換えていけるものなのか否かが記載されている書物等の案内も必要になります。	
	配筋	配筋	
	外観検査		
	形状寸法		
	施工	現場打ち水廻り(製品価格)	成立性の確保に必要な関連工種等に関する確認も必要になります。また、製品や材料の技術であっても、その製品や材料を活用することにより、施工に影響があるのか否かを具体的に記述して下さい。従来と同様であるので問題ない等の表現ではなく、同じであれば同じ事を確認した内容を、必ず記述して下さい。
		モルタル目地	
	完成物	基準前	
		厚さ	土木共通仕様書をはじめ、各基準が明確になっている項目、出来形管理に関する項目を具体的に挙げて、記述して下さい。また、新技術の性質上必要となった項目があれば、追加してください
		幅	

ブロックⅢ中項目、小項目について(参考)

施工性		種	
施工性	合理化	工程	様式2で記載した内容に関連するように項目立てしてください。 また必要であればそれ以外の項目も追加してください。 様式2では文字数の制限や、読みやすさの点からも、詳細な記述をしにくい側面があります。それらの記述事項に対し、ここで詳細を説明してください。
			様式2:活用の効果の内容を、記載します。日数や時間で定量的に比較出来ると思います。
	現場条件	作業空間	様式2で記載した内容に沿って新技術の施工に係わる具体的な現場条件を項目立てし、記述してください。 例えば実証により確認した数値等々への記述の場合、関連機材の設置ヤードなど、事例として挙げた施工量に対し、何メートル×何メートルが必要である等のように、客観的に規模が分かるようにしてください。 従来と同様などの表現はなるべく避けてください。
			様式2で記載した内容に沿って記述して頂くと、分かり易いと思います。
	適用範囲	機材の配	様式2で記載した内容に沿って記述して頂くと、分かり易いと思います。 また基準等に関わりのある条件がある場合は、現行基準値等に具体的にその基準を記述して下さい。
			共通仕様書などにある施工管理項目を記述し、それぞれに対して確認して下さい。 製品・材料に関する技術の場合であっても、それに変わったことにより施工に影響がある場合があります。このようなことを考慮して、施工に係わる内容を記載して頂いています。
	自然条件	天候	共通仕様書などにある施工管理項目を記述し、それぞれに対して確認して下さい。 製品・材料に関する技術の場合であっても、それに変わったことにより施工に影響がある場合があります。このようなことを考慮して、施工に係わる内容を記載して頂いています。
			新技術の施工など取り扱いに関係する難易度、熟練度について記述して下さい。 例えば、取り扱いに永い経験が必要な場合や、重機や調査の上で必要な乗り物などを取り扱う資格などがある場合。 また、従来は職人に頼っていたものがパソコンなどのシステムにより、経験を要さずに従来と同等の施工が可能になった場合などについても記述してください。
	施工管理	熟練工への	新技術の施工など取り扱いに関係する難易度、熟練度について記述して下さい。 例えば、取り扱いに永い経験が必要な場合や、重機や調査の上で必要な乗り物などを取り扱う資格などがある場合。 また、従来は職人に頼っていたものがパソコンなどのシステムにより、経験を要さずに従来と同等の施工が可能になった場合などについても記述してください。
周辺環境への影響	社会環境	河川利用者への安全	

周辺環境への影響			
周辺環境への影響	難易度	熟練工への依存度	
	社会環境		社会環境、作業員環境、自然環境などの点から新技術の施工に関して、どのような影響が考えられるか、緩和出来るのか、など、基準があるものは基準に照らし合わせて記述して下さい。
	作業員環境		

☆区分が**システム**の場合は、下記のような内容も考慮して下さい。

- ハードに関する内容→依存する機器、PCであればその環境、また専用機器となるのかなど
- ソフトに関する内容→解析にあたって準用した式や、その引用もとなど
提供方法が買い取りなのか請負なのかなど
OSの種類やバージョンなど
- インフラに関する内容→データのやり取り等に関わる必要なインフラ、また専用回線の設置など
- 成果に関する内容→確実性や頻度、形状と信頼性、保存保管や加工に関する特性など
納品方法や形態など
- フォローやメンテに関する内容→バージョンアップやその方法など
- 熟度に関する内容→技術を成立させるにあたり関係する資格等
(例えば飛行機の免許や無線免許等、必要の有無)
- 関係諸法令等に関する内容→廃掃法への抵触や汚染物質を使うかなど
事前申請の必要なものがあるか否か
- 作業・調査環境に関する内容→持ち出せるものなのか、設置型なのかなど
- バリエーションに関する内容
- データ取得方法など

ブロックⅢ(①、③)及び(②、④)について

詳細説明資料(様式3)の作成にあたり、下記の要領でまず各項目に対し①現行基準値等、③申請技術について実証により確認した数値等の内容を記入してください。
 ②現行基準との比較<結果>には、「③申請技術について実証により確認した数値等」と「①現行基準値等」を比較した結果を記入してください。
 ④従来技術との比較<結果>には、想定している従来技術の数値等と比較した結果を記入してください。
 内容については下記の説明及びひな形の欄外(黄色着色部分)の説明を参照して下さい。

項目	①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較<結果>
小(以下の記載は例です)				
施工	<p>現在、新技術を施工するにあたり、準用すべき基準等を出来るだけ詳細に記述して下さい。</p> <p>基準内容が数値などで表記されているものがある場合は、それも記述して下さい。</p> <p>「所要の数値」や「仕様書に定められた数値」などの表現ではなく、その数値等を具体的に記述して下さい。 任意の工事による仕様書等の場合は、備考に説明を入れてください。</p> <p>工程などの場合、基準はないと思いますが、従来の積算方法で算出した具体的な日数を記述して下さい。</p> <p>よくある質問 【Q】従来技術の基準値ではなく、申請技術の基準値ということではなかったでしょうか？ 【A】申請技術が準用すべき基準値をお願いします。標準的な基準自体がない技術の場合、協会・自社基準等で構いません。申請技術の基準で独自のものがある場合は、別項目として記述して下さい。</p>	<p>ここには実証実験や試験施工、計算等で確認された数値などを記述して下さい。出来るだけ定量的な記述をお願いしますが、対応する基準内容によっては文章による表現である場合もあり得ます。適宜対応して下さい。</p>		
材料の規格(コンクリート)				

③への「同等・向上・低下」や「適合・不適合」などの記述は **不可** です。また、①で基準値を記述した場合は、確認した数値(またはその範囲)を具体的に記述して下さい。

申請者記入欄				
①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値
	<p>①と③を比較し、その結果を客観的に「適合・不適合」で記述して下さい。</p>	<p>従来技術はもちろん①現行基準値を満たしているはずですが、その数値と③申請技術について実証により確認した数値等を比較し、客観的に「向上・同等・低下」から記述し、その理由も記述できるとよいでしょう。</p> <p>①現行基準値等との比較と同じ内容になる場合もありますが、従来技術よりも新技術の方が誤差が少ないなどの「向上」などもあり得るため、その際は説明書きを入れてください。(備考に記述して頂いても構いません)</p> <p>【Q】申請技術が二次製品、従来技術が現地製作であるため、比較する場合単純に「向上」、「同等」と記載できない内容が多くありました。その場合は「従来技術は～」と記載して構いませんか？ 【A】そうして下さい。また定義が大きく変わる場合、記述しにくい場合は、備考に記述して下さい。</p>		
	<p>軸となる①と③の内容に対する客観的な記述をお願いします。</p>			

ヒアリング持参または更新資料のメール添付前に・・・

様式3の作成にあたり、様式の書き方のポイント等を提供し、資料作成に役立てていただけるようにしていますが、それらの内容を確認せず、ほぼ白紙の状態であったり、下記のような内容の資料であった場合、ヒアリングを中止、更新の場合は資料作成不可能技術とさせて頂く場合があります。

提供した資料を熟読してもよく分からない点があるようでしたら、その不明点を具体的に示して、ヒアリング前または資料送信前に電話等でお問い合わせ下さい。

殆ど「-」ばかりで、詳細説明資料になっていない。

This table is a complex data sheet with multiple columns and rows. A large red 'X' is drawn over the entire table, indicating that the data provided is of poor quality. The table appears to be a financial or operational report with various categories and numerical values.

確認した数値等が「同等」や「適合」ばかり。

This table is similar to the first one, but with a large red 'X' over it. It shows a high degree of repetition in the data, with many cells containing the same values or terms like '同等' (equivalent) and '適合' (conformance), which is noted as a problem in the adjacent text box.

各行を複写しているだけ。

